



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 13 R6. 10. 01

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

探究ではどんな力を鍛えるのか —総合型・学校推薦型選抜への対応—

総合型選抜や学校推薦型試験は探究活動と親和性が高いと言われている。

基本的にどちらも「あなたがその大学で何を学び、どう将来に生かしていきたいか」という意欲や熱意が問われる。付け焼刃の言葉では見透かされる。自分の言葉（書いたものを暗記して再生するのではなく、単語や語句を適切な理解に基づいた間合いで使う）で語られると“自分の頭で考えている”ことが伝えられる。高校入試の面接とは質が違う。

こうした選抜方法で合格した学生は大学1、2年次には一般選抜（教科の試験）で入学した学生よりも成績的には劣るが、研究室配属後の伸びが違うと言われている。東北大学や筑波大学など、将来的に総合型の定員を増やすことを宣言している大学もある。

そこで、総合型・学校推薦型入試に向けたアドバイスを整理してみた。

- ・ 高校の教科科目の学習を基盤として万全にしておくこと
- ・ 平素から問題に対する科学的思考を鍛えておくこと
（「科学的思考」とは、例えば、問題の発見、検証、解決というプロセスを意識し自分の頭で考えること）
- ・ 世界の諸問題をジブンゴトとしてとらえる意識をもつこと
- ・ 様々な社会問題に対する考察力、データ・資料の分析力、経験をとおして得た価値観や教養をベースに解答する力を鍛えること
- ・ 現代社会の課題を学ぶための行動・経験を重ねること
- ・ 知識だけでなく、正解のない問いに果敢にチャレンジする柔軟な思考力を鍛えること

こうしてみると、探究活動との親和性が高いというのも頷けるだろう。

特に注意してほしいのは、教科の勉強と探究を別物として切り分けるのではなく両者ともともと一つなのであり、“学力”を別の視点からとらえているにすぎないということだ。探究力によって教科力に拍車がかかる。これらを両輪として鍛えていこう。

受験勉強を楽しむ —批判精神をこそ鍛えるチャンスに—

受験テクニックのひとつに「言い過ぎ選択肢は誤りの可能性が高い」というのがある。

「必ず」「全て」といった強い肯定表現を含む選択肢は本来のニュアンスを過度に強めていて、誤りであることが多い。「多くの鳥は空を飛ぶ」という内容から「全ての鳥は空を飛べる」へと話を広げた選択肢が誤答になるといった感じだ。誤った拡大解釈を見抜かせる出題意図がある。実際にこの手の見え見えの選択は減ってきたが…。

「先生、自己矛盾ではありませんか?」。かつて、授業後にある生徒が私に訴えてきたことがある。国語の授業でこのテクニックに触れて舌の根も乾かぬうちに「ここは絶対入試に出るぞ!」と言ってしまったらしい。「必ず」という表現は眉唾だ」と言った端から「絶



対”出る」と言われたら、疑問がわくのは当然だ。「そこは大目に見てよ」とも思ったが、そういう批判精神は大切にしたい。

いい受験勉強は、様々な場面で批判精神を発揮させる。

例えば、大学入試問題の解答例が業者によって異なることも多い。難関大は特に。そこで、解答例を徹底して比較、考察する生徒もいる。批判的に解答を考察しているわけだ。

複眼的思考を求めるのは特に難関大入試の特徴だと言える。例えば、東大の数学では様々な解答方針から適切なものを選んで解答させる問題が多い。英語ではある論点について賛否の両面から論じさせる問題も出されている。国語然り。

「受験勉強は知識の詰め込みに過ぎない」と批判する声はなくはない。しかしそれは一面的な印象にすぎない。受験勉強においても、いや受験勉強においてこそ、批判的思考を養う場面に数多く出会えると感じる。

“できる”人は批判精神を武器に受験勉強を楽しんでいる。これこそ最強の勉強法だ。

データサイエンスは文理必須！ ー情報社会に必要な資質・能力ー

9月16日、佐賀大学本庄キャンパスでデジタル人材や起業家を育成するためのプログラム（DIハイスクールSEIRENKATA）が行われ、本校からも1年生の5名（正司浩大、古川太一、前田康希、小柳佑太、原優理子敬称略）が参加した。



話をしているのは皆本佐賀大学教授

講義では「多くの情報を整理・分析するデータサイエンスは新たな価値観を創造する営みで、これからの社会を生き抜く力」「これまでの工業社会で誠実さを特徴とする日本人は成功したが、情報社会では自分の意見を持ち新しいものを生み出すことが必要」といったことを学んだ。

参加者からは「データサイエンスは学校でやっている探究のプロセスと同じだと気付いた」「マニュアル人間じゃダメ。自主性や個性を磨かなければ」と感想が聞かれた。

探究と主体性。自分の頭で考え自分の言葉で語ることができる人間になってほしい。

「なるほど、なるほど」「りょーかい！」は是か非か ー相槌の難しさー

皆さんは相手の話を聞くとときにどういう相槌をしているだろうか。「うん、うん」「なるほど、なるほど」等々…。でも先生と生徒の関係で「なるほど」はふさわしくない。

入試の面接でも注意したい。「なるほど」は上位者もしくは同等の相手が使う言葉で、下位者から言うのは失礼にあたる。「はい」とか「ええ」とか「わかりました」がいい。

ちなみに何か指示があった時の受け応えで「了解です」もよく耳にする。「承知しました」がへりくだった言い方。ちょっとした言葉の配慮で品格が磨かれます。

（閑人閑話）漢文の授業で儒家と道家はどちらが好きか尋ねたことがある。2年生までにどちらも学習する。▼私は高校時代、将来何になりたいかという問いに「仙人」と答えて周囲を戸惑わせた。老荘思想に憧れ、大学の一時期中国文学を専攻した。▼大学に入ればかりの頃、正門横のかび臭い古本屋で見つけた『仙人への道』。これこそ自分が求めていたものだと思えた。▼大事に手に取りペー지를めくる。そこに書いてあったのは…ヨガだった。がっかりした。どうやら仙人になれるかなんて誰にも分らない。▼冒頭の授業では圧倒的に「儒家」を推す生徒が多かった。人は秩序を欲するものなのかと感じた。▼今、毎日『論語』を読んでいる。作家の井上靖は孔子を人生の教師だと言っている。『論語』は奥が深い。人生のライフワークにした。（昌）

【当面の主な予定（10月前半）】

- 1日（火）人権同和教育講演（全）
- 2日（水）中間考査（1・2年4日まで）
- 5日（土）国スポ開会式
- 7日（月）最終考査（3年10日まで）
- 15日（火）3年共通テスト100日前集会

